

交通局の経営状況をお知らせします

交通局の現状について

～コロナ禍・原油高で厳しい状況に

令和2年1月に日本で最初の感染者が確認されて以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延は社会情勢を一変させ、これまで当たり前であった生活様式にも大きな変容をもたらしました。

全国の公共交通機関は、感染者の増加に伴い発出された緊急事態宣言等により乗客数は大きく減少し非常に厳しい経営を強いられています。バス事業者においても乗客数は大きく減少し、運賃収入は、前年対比で50～60%と激減しました。また、原油価格の高騰により燃料費が大きく増加するなど非常に厳しい経営を余儀なくされることとなり、本市交通局においても同様の状況となりました。

その後、本市交通局の運賃収入は、感染拡大と縮小を繰り返す波の影響を受けながらも緩やかな回復傾向で推移し、コロナ禍前の令和元年度と比較して、有料券種で、80%程度に戻りつつあります。

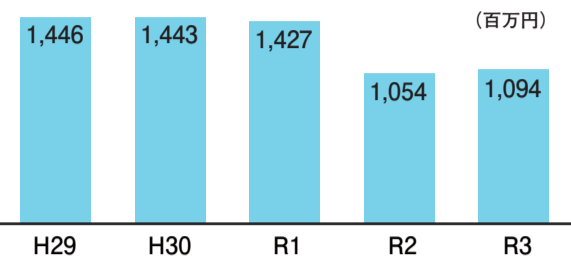
一方、緊急事態宣言等の行動制限がされない状況となつてからは、一層の乗客数の回復が期待されましたが大幅な回復には至っていない状況が続いています。長期にわたるコロナ禍の生活からすでに新しい生活様式が定着し、コロナ前の移動需要には戻らないことを意味する見方が一般的になってきました。

本市交通局では、移動自粛等により大きく減少した需要に合わせた運行便の調整や乗合車両の更新延期による投資抑制を図るとともに、全乗合車両の抗菌・抗ウイルス施工、「バス混雑情報提供システム(いたみバスナビ)」を導入し、安心してバスを利用していただけるよう努めてきました。

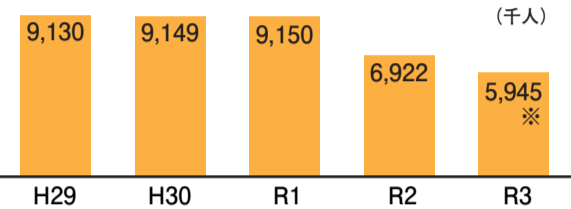
今後も市民生活を支える重要な社会インフラとして「安全・安心・快適」な輸送サービスを提供し、変化する社会の需要に応じた事業展開を進めていきます。

(注)有料券種とは、高齢者等特別乗車証を除くすべての券種をいいます。

乗合旅客運賃の推移(有料券種のみ)

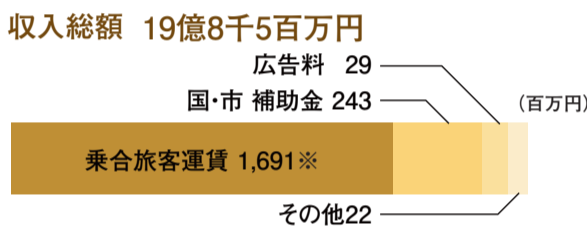


乗車人員の推移(有料券種のみ)

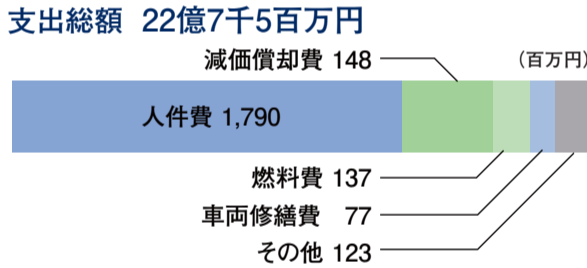


※R2からR3にかけて、定期券IC化に伴い算定方法をタッチした回数へ変更したため減少している。

収益的収支(交通サービスを提供する経費と財源)

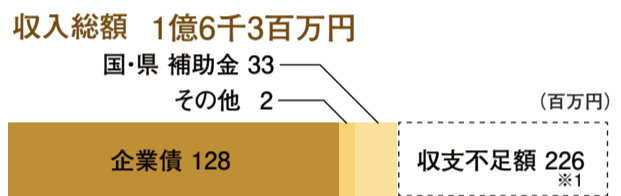


※乗合旅客運賃には、高齢者等特別乗車証に対する市からの負担金を含む。



令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。特に有料券種にかかる乗合旅客運賃については、コロナ禍前(令和元年度)と比べ約23.3%の大幅な減収となり、上図のとおり支出が収入を大きく上回ることとなりました。その結果、2億8,990万7千円の純損失となり、令和2年度に続く赤字決算となりました。

資本的収支(施設整備のための経費と財源)



※1 内部留保資金で補っています。内部留保資金とは、減価償却費など現金の支出を伴わない費用によって企業内部に留保される資金などです。



※建設改良事業費の内訳
 ・バス混雑情報提供システム 71 ・大型乗合バス更新事業 125
 ・バス停留所諸施設改良事業など 2 ・バス洗車機更新 5
 ・ドライブレコーダー更新 19 ・バスICカードシステム新500円硬貨導入 14

コロナ禍において、利用者の皆様に安心とさらなる利便性を届けるため「バス車内混雑情報提供システム(いたみバスナビ)」の導入、「大型乗合車両6両の更新」等を行いました。一方で、これらの建設改良事業に対する財源として、国庫補助金の受入れや企業債での借入を行っています。

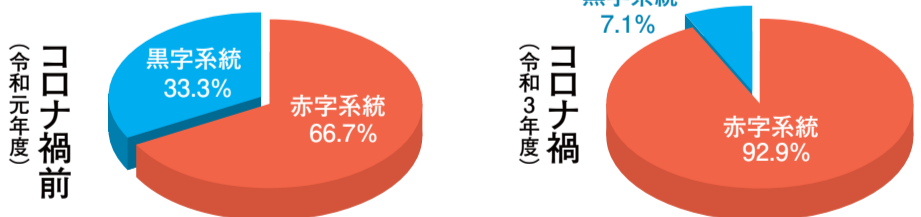
一般会計からの補助について

交通事業会計は、利用者の皆様からの乗車料収入や広告料等の収入に加え、一般会計等からの負担金及び補助金等の繰り入れにより成り立っています。令和3年度は市が負担すべき経費として高齢者等特別乗車証の発行負担金として5億9千7百万円、収支不足となつている路線を維持する補助金として1億3千7百万円、基礎年金拠出金の負担経費などに對する補助金として7千3百万円、また、原油価格高騰に伴う燃料費の支援として1千6百万円、計約8億2千3百万円を繰り入れていきます。

令和3年度決算の概要

営業係数の状況

営業係数とは、1つの運行系統において、100円の収入を得るためにいくらの費用がかかるかを表す指標のことです。費用が100円を下回れば黒字系統、上回れば赤字系統というように運行系統ごとの利用状況を判断する目安となります。



コロナ禍前から、赤字系統の割合は多かったものの、黒字系統の収入と市の交通施策による一般会計からの補助金もありなんとか収支は取れていました。

コロナ禍の影響で利用者数が激減、収支が大幅に悪化したことで黒字系統の割合が減少し、ほとんどの系統が赤字系統となっています。

便利で身近な市営バスをご利用ください

今後も、利用者数の大幅な回復は見込めず、厳しい状況が続くと想定されますが、市営バスは通勤・通学、病院への通院や普段の買い物などの社会経済活動に欠かせない「市民の移動手段」であるため、伊丹市を支える公共交通としての役割を果たさなければなりません。便利で身近な公共交通を維持していくためには、より多くのお客様にご利用いただくことが大切です。

例えば、市民の皆様が「月にあと1回ずつご利用いただければ、赤字が解消し路線・ダイヤを守ることが繋がります。」

通勤・通学、お出かけの際は、ぜひ、市営バスをご利用ください。